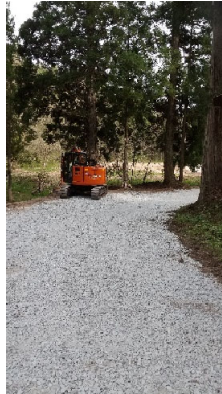


# おくまんさま

春号 令和5年6月30日発行 第88号

## ◇ 間伐作業完了

間伐作業に伴い泥だらけになっていた神社参道入口付近に砂利を敷きました。春は泥んこ道でしたが現在は安心して歩けるようになりました。ただ、間伐作業で開設した道路は作業道で安全な道路ではありません。もし通行されて、万一転倒などで怪我などをされても、神社では責任は負いかねますので、十分ご注意の上、ご通行ください。



## ◇ ご神木植樹



おくまん様のご神木二号は令和元年の台風で幹の途中から折れ、その後枝がす

べて落ちてしまいました。落ちた枝からさし穂を取って大切に育てていきましたが、その内の二本が根付きましたので、このたび境内に地植えしました。何百年か経って再び巨木に成長している姿を思い浮かべつつ。



## ◇ 岩野のお田植祭

お隣の岩野地区での行事ですが、五月二十三日、秋の伊勢神宮新穀感謝祭に奉納する稲のお田植祭が行われました。NHKニュースと山形新聞記事にもとりあげられたのでご覧になった



方もいると思います。大切に育てられた稲は、十月十五日に伊勢市内で初穂曳という行事を行って伊勢神宮に奉納されます。

## ◇ 茅の輪くぐり

昨年好評だった茅の輪くぐり神事を今年も七月二日に市民センター駐車場で行います。大祓詞を奏上し、茅で編んだ輪をくぐって身体を清め、半年間の罪汚れを人形に移して今年後半を健康に過ごせるようにお祈いします。参加無料です。どうぞ皆さまお集まりください。



## ◇ 巫女舞講習会

大祭で舞を奉納する巫女さんを募集する予定です。ご案内がありましたらどうぞ奮ってご参加ください。よろしくお祈いします。

## あとがき

大祭まであと三カ月をきり、村中では奴や鹿子の練習の笛太鼓の音が聞こえ始めました。その音を聞くと今年は大祭の年、あれから十年たったんだ、と感慨深くなります。五月からはコロナ感染症が五類に引き下げとなりました。大祭実行委員会を始めとする皆様のご努力が実りつつあると感じております。あと少しであの奴と鹿子の華麗な姿が見られます。明治以来十二回目の大祭が盛大に行われますように、どうぞご協力をよろしくお祈い申し上げます。また大祭に合わせて神社も整備してまいりますので、神社運営につきましても変わらぬご協力をいただきますよう、よろしくお祈い申し上げます。



# 大祭特集

今回は湯野沢熊野大祭の華、奴振りの歴史について先代宮司の調査資料をもとに紹介します。昨年発行した「富本村史（大字湯野沢）」もご参考ください。

○明治十五年

現在の奴の原型は明治十五年の熊野神社本殿竣工、遷座大祭で振られた奴です。海老名家門前と旧石井商店（たがやさん）前にあった旧一の鳥居前で振ったと伝えられています。師匠は海老名庄左衛門、法被・帯・前隠しは熊谷暁という方が調製したといわれています。

○明治二十七年

次に奴が振られたのは明治二十七年の天満神社式年大祭と小学校校舎竣工記念の時です。この年に猿田彦（天狗）の面と鳥兜、装束を購入しました。奴振りはこの年に地区内の壬寅会という団体によって組織化され、師匠は石川善作、宮林三蔵という方が務めました。

○明治三十二年

この年の大祭で、ムカデ獅子

神楽―奴―神輿渡御―稚児―天神鹿子踊という現在につながる行列順序が固まりました。また前回大祭の神輿渡御行列絵馬が天満神社に奉納されています。

○大正六年

大正天皇御即位を記念して大祭が行われました。奴振りはこの年から正式に神輿渡御にくわわることになったともいわれています。富本村青年団湯野沢支部荒敷分区が奉仕しました。熊野神社階段上の鳥居が建立されたのもこの時です。左の写真は小さくて分かりづらいですが当時とられた記念写真です。（以下同じ）

○昭和三年

昭和天皇御即位記念と天満神社式年大祭が行われました。この大祭まで奴は熊野神社旧一の鳥居前まで御神輿を先導して終



了し、熊野神社までは行きませんでした。この大祭後、戦争の影響が濃くなると大祭はしばらく行われなくなりま

○昭和二十三年

現在の日本国憲法発布を記念し、熊野神社式年大祭が行われましたが、当時の記録はあまり残っていません。

○昭和三十一年

市町村合併により現在の村山市が誕生したことを祝うお祭に奴振りも参加しました。参加後に熊野神社に奴振りを奉納し、参拝しました。



○昭和三十八年  
熊野神社式年大祭が行われ、奴が振られました。



○昭和五十一年

前年雪で倒壊した天満神社本殿を再建、遷座した大祭で奴が振られています。当時は記録した映像が8ミリフィルム（杉原悟さん撮影）に記録されています。

○平成元年

天皇陛下（現上皇陛下）のご即位を記念し、また富本村誕生百年、圃場整備完成、小学校新校舎落成を記念して大祭が行われ、奴が振られました。北村山視聴覚センター撮影のビデオがあります。

○平成十五年

熊野神社鎮座八百年を記念した式年大祭が行われ、奴も振られました。この時正式に保存会

が結成され、今後十年ごとに大祭を行っていくこと、大祭費用の積立てをしていくことなどが決まりました。

○衣装・用具の特徴と変遷

◆法被、化粧まわしの山桜紋は熊野神社の御神紋です。

◆道具の毛槍は神町の若木神社別当だった石宝院にあったものを明治維新の時に海老名家が引き取ったものといわれています。

現在の毛槍は大正六年に京都より購入したもので、その時に太鼓も補修されています。

◆挟み箱は、天皇家の菊の御紋と有栖川家の桐のご紋であり、昭和三十八年の大祭までは畏敬の念と保護のため白布で覆い隠していました。

◆太鼓には昭和三年大祭より神紋左三つ巴紋を入れました。

◆奴は腰にフクベンという穀物を入れる袋をつけていましたが、昭和五十年から瓢箪の根付になりました。

◆師匠が奴を仰ぐ道具は当初農作業の箕でした。昭和三十一年のお祭りから団扇になりました。